

琉球大学同窓会主催
シンポジウム 2016

これからの沖縄観光と人材育成

日時：平成28年7月23日 土 午後3:00～5:00
場所：ホテルロイヤルオリオン 2階「旭の間」(入場無料)

琉球大学同窓会主催 シンポジウム 2016
「これからの沖縄観光と人材育成」



琉球大学同窓会会長
幸喜徳子

ごあいさつ

本日はようこそ「琉球大学同窓会主催 シンポジウム 2016」へお越し下さいました。誠に有難うございます。

日頃より皆様には琉球大学同窓会に対し、深いご理解と多大なるご支援を賜り心より感謝申し上げます。

今年は昨年の記念講演に続き、「これからの沖縄観光と人材育成」をテーマにシンポジウムを企画致しました。県内外でご活躍の観光のエキスパートの皆様を講師及びパネリストとしてお迎えでき、当会にとって望外の喜びでございます。

パネリストは琉球ガラス村グループ会長の稲嶺盛福様、(株)ブライダルハウスチュチュ沖縄専務取締役の下地かおり様、(一財)沖縄観光コンベンションビューロー会長の平良朝敬様、日本航空(株)沖縄支店長の渡部勝磨様をお願い致しました。基調講演は琉球大学観光産業科学部長の下地芳郎教授がお務め下さいます。

琉球大学観光産業科学部では多くの学生が将来の観光人材となるべく、日々研鑽を積んでおります。今後、観光の分野においても琉球大学の果たす役割は社会の大きな期待を担っており、本会も微力ながら母校の支援を一層充実させたいと考えております。

さて、2015年度の沖縄県の観光入域客数は793万6300人、観光収入は6022億円余となりました。観光立県として名実共に、日本本土はもとより世界に発信するまでに成長していることは県民として嬉しい限りです。

それはとりもなおさず、沖縄県や(一財)沖縄観光コンベンションビューローをはじめ観光関連産業等、官民一体となった取り組みの賜物だと、皆様のご尽力に対し深く敬意を表する次第です。

今回はこれからの沖縄観光の方向性、可能性、そして観光を支える人材育成等について講師、パネリスト諸氏の体験を通したご講演、ご提言を伺い、会場の皆様と共にテーマについて学ぶ場になりたいと思います。

結びに、ご登壇頂きました皆様にはボランティアでご協力頂いており、心より御礼申し上げますと共に、本日ご参加下さいました皆様様のますますのご健康とご多幸を祈念申し上げます。

会場の皆様、どうぞ最後までご協力賜りますよう、お願い申し上げあいさつと致します。

平成 28 年 7 月 23 日

琉球大学同窓会主催
シンポジウム 2016

「これからの沖縄観光と人材育成」

期 日 平成 28 年 7 月 23 日 (土)

時 間 15 時～ 17 時

場 所 ホテルロイヤルオリオン 2 階「旭の間」

テ ー マ 「これからの沖縄観光と人材育成」

趣 旨 沖縄県の平成 27 年度の観光客数は 793 万人超となり、3 年連続過去最高を更新しており、今や観光は沖縄のリーディング産業となっています。そうした中、沖縄の観光業の人材育成は喫緊の課題となっており、これから如何に人材育成を図っていくか、また大学における役割、さらに関連業界における観光振興への提言を語っていただきます。

基調講演者 下 地 芳 郎 氏 (琉球大学観光産業科学部長)

パネリスト 稲 嶺 盛 福 氏 (琉球ガラス村グループ会長)
下 地 かおり 氏 (株式会社ブライダルハウスチュチュ沖縄専務取締役)
平 良 朝 敬 氏 (沖縄観光コンベンションビューロー会長)
渡 部 勝 磨 氏 (日本航空株式会社沖縄支店長)

コーディネーター 幸 喜 徳 子 (琉球大学同窓会会長)

琉球大学同窓会主催 シンポジウム 2016
「これからの沖縄観光と人材育成」

基調講演者 下地 芳郎 氏



〔略歴〕

昭和32年生まれ
昭和56年 明治大学法学部卒業
平成21年 立教大学大学院修了修士（経営管理学）
昭和56年 沖縄県庁入庁
平成3年 カナダトロント大学派遣
平成6年 JETRO（日本貿易振興機構）派遣
平成7年 沖縄県香港事務所所長
平成23年 沖縄県文化観光スポーツ部観光政策統括監
平成25年 琉球大学観光産業科学部教授・学長補佐
平成28年 琉球大学観光産業科学部長、大学院観光科学研究科長

これまでの沖縄観光 これからの沖縄観光

1. 沖縄観光基礎知識

～沖縄観光の正しい理解に向けて～

- (1) 沖縄の地理的特徴
- (2) 観光から Tourism へ
- (3) 大事な観光客数の捉え方

2. 沖縄観光の進化

～変化に柔軟に対応してきた沖縄観光～

- (1) 国際観光先進地だった沖縄
- (2) 沖縄観光イメージ変化
- (3) 沖縄観光の現状
- (4) 沖縄観光の未来

3. ハイブリッド・リゾート OKINAWA を支える観光人材育成

～ポスト21世紀ビジョンを見据えた展開～

- (1) ホスピタリティとマネジメント
- (2) 語学力と情報分析力
- (3) 観光経営人材と地域振興人材
- (4) 学部教育と大学院教育

4. 最後に

パネリスト提言要旨

琉球ガラス村グループ会長
稲 嶺 盛 福 氏

株式会社ブライダルハウスチュチュ沖縄
専務取締役
下 地 かおり 氏

沖縄コンベンションビューロー会長
平 良 朝 敬 氏

日本航空株式会社沖縄支店長
渡 部 勝 磨 氏



琉球ガラス村グループ
会長 稲嶺 盛福 氏

【略歴】

昭和19年 生まれ
昭和45年 琉球ガラス工房「ぎやまん館」設立
昭和58年 「琉球ガラス工芸共同組合」設立
その後、「琉球ガラス工芸協業組合」に組織変更し、
「琉球ガラス村」を設立
平成7年 ベトナム国ハノイ市に「ベトナム琉球文化工芸村」設立
昭和62年 中小企業庁長官賞表彰
昭和63年 通商産業大臣賞表彰（ふるさと再発見事業）
平成7年 沖縄県観光功労賞受賞
平成12年 オグレスビー氏工業功労者賞受賞

1. 沖縄観光の展望

観光客の急増に向けた受け入れ側の体制と対応＝交通インフラの整備、那覇市内の駐車場の拡充等

2. アジアのハブ空港としての那覇国際空港の積極的活用

観光エリアおよび諸施設との有機的な結接

3. 人材の育成

- ① 国際マナーの向上
- ② 必要とされる基礎語学力（特に英語）の習得と向上
- ③ ニューリーダーの養成

4. 観光ニュービジネスの発見、発掘、創造

5. 利益（率）の向上に向けた仕組みやシステムの改善又は構築と産（事）業環境の整備

6. 琉球ガラスの将来像（ビジョンの構築と具現化）

- ① ガラスの無限可能性を探求する。（あらゆる分野とシーンにおけるガラスの多活用）ex 建築の内外装等
- ② デザイン性（求心力のある）を高め、観光土産品又は工芸品から美術品の域へ進化する。
- ③ 琉球ガラスのブランディング グローバルな視点においてアジアを代表するガラス製品として位置づける。

*現在、イタリアのベネチアンガラスと業務提携を行ない製造技術を相互交換



〔略歴〕

昭和44年 生まれ
平成2年 東京ビジネス外語専門学校卒業
前田建設工業株式会社入社
平成11年 株式会社ブライダルハウスチュチュ沖縄入社
平成16年 株式会社ブライダルハウスチュチュ沖縄取締役統括部長就任
平成23年 株式会社ブライダルハウスチュチュ沖縄常務取締役就任
平成28年 株式会社ブライダルハウスチュチュ沖縄専務取締役就任

(株)ブライダルハウス チュチュ沖縄
専務取締役 **下地 かおり 氏**

(株)ブライダルハウスチュチュ沖縄は、婚礼相談から婚礼貸衣装、リゾートチャペル、ゲストハウスの運営まで、多様化するウエディングニーズを叶える総合ブライダル企業を目指し日々取組を行っております。

1999年沖縄支社設立に際しては、国内屈指のリゾート地沖縄に海外にも引けを取らないリゾートウエディング事業の可能性を見出し、これまで多くのお客様と関係企業の皆様に支えられて現在リゾートチャペル6施設を運営する企業に成長いたしました。

沖縄リゾートウエディングは、県やブライダル企業の誘客プロモーション、チャペル数の増加等で認知度が向上したことによって、国内にとどまらずアジア圏からの挙式利用も増加し、昨年は総実施数が1万4千組を超え、観光ブランドの一つとして認められる産業に成長しています。

実施組数増加の反面、国内外からのゲストを受け入れるにあたり、多言語対応や外国人ゲストへの多様化するサービスの向上を求められる中、ブライダル企業では雇用や人材育成が追いついていない現状も窺われます。

私達は企業の使命として、「ブライダル業界で働きたい」と思っただけの様な雇用条件や環境の整備をはじめ人材育成への努力をこれからも続けてまいります。

沖縄は自然環境、類まれなる文化、温かな県民性が人々を魅了する素晴らしい観光地です。ブライダルハウスチュチュ沖縄は、ブライダル事業を通し沖縄県へ貢献できる企業でありつづきたいと強く思っております。



【略歴】

昭和29年 生まれ
昭和50年 有限会社ホテルなは入社
平成3年 株式会社平盛リゾートエンタープライズ代表取締役社長
平成15年 沖縄県観光功労者賞受賞（最年少）
平成19年 内閣府沖縄総合事務局長表彰受賞（観光部門）
平成20年 ふるさと企業大賞総務大臣表彰（沖縄企業初）
平成22年 かりゆしグループCEO就任
平成23年 国土交通大臣賞表彰（観光功労賞）
平成27年 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー会長就任

沖縄観光コンベンションビューロー
会長 平良 朝敬 氏

沖縄観光の力

沖縄県の観光の源は下記の4つの要素を持って、持続的に成長し発展して行きます。

1. 観光地としての世界水準の条件が整っている。

* 気候、自然、文化、食事

2. 世界観光のトレンドに順行している。

アジアの時代、

海外観光客受入者数

海外旅行客の推移と予測

観光（視覚）、感幸（五感）、歓交（交流）

3. 地理的優位性が高い。

* 航空路線網の可能性

* 交流と物流の可能性

* 3000km に 20 億の人口

4. 人口増加による可能性がある。

* 増加する地域（定住者）

* 人や文化を受入れる力

* 受け入れ独自の文化にする

先 15 年の入域観光者数の見通し

2016 年度観光入域者数目標



【略歴】

昭和60年 中央大学法学部法律学科卒業
平成15年 日本航空株式会社 西日本支社国際販売部第一販売グループ長
平成18年 日本航空株式会社 沖縄支店 第一販売グループ長
平成22年 日本航空株式会社 本店 顧客販売部長
平成26年 日本航空株式会社 沖縄支店支店長
兼 日本トランスオーシャン航空 取締役（非常勤）

日本航空株式会社沖縄支店
支店長 **渡部 勝磨 氏**

多様性（diversity）を受け入れることによって、誰にでも優しいリゾート沖縄を目指す。

- ① 奄美琉球世界自然遺産登録を支援推進することで 生物の多様性の重要性を PR していく。
- ② LGBT 性的マイノリティーの皆さんを理解、支持者（ALLY）となること。性の多様性を受け入れる。

この2点で様々な事への沖縄の受容力を示す。

お問い合わせ

【琉球大学同窓会事務局】

〒903-0213 沖縄県西原町千原1番地（琉球大学50周年記念館内）

TEL : 089-895-8039 FAX : 098-895-8163

E-mail : r-dousou@to.jim.u-ryukyu.ac.jp